

雑誌閲覧室の大学紀要は、原則的に各大学から寄贈していただいたものを受け入れ・排架しています。受け入れ業務をしていると、全国各地の大学が実に多種多様の紀要を発行し、送付して下さることに感嘆してしまうほどです。そんな大学紀要に接していると、やはり地域性が感じられます。地域研究や民俗研究に止まらず、その地方特有の動植物に関する研究や地質の調査結果など、幅広い分野にわたってそれぞれの大学が接している地域の様子が窺われ、大変興味深いものです。しかし、数多く送られてくる紀要のすべてを受け入れ、排架するのは不可能なので、残念ながら閲覧室には並ばずに書庫へ直行してしまうものも少なくありません。

そんな中で新たに紀要を受け入れる際に、その紀要を選ぶかの判断はなかなか難しいものです。殊に文系人間の私には、理工系の紀要のうちでどういった内容のものが本学の利用者に必要なかを把握するのは難題であり、頭を悩ませ、勘を働かせつつ選択することになります。

また、ここ数年の傾向のようですが、大学改革の一環として学部改組とそれに伴う紀要の創・廃刊の通知をしばしば目にします。新たな学部紀要に継続されるもの、まったく途絶えてしまうものと様々ですが、それぞれに大学の歴史をかいま見るような気がします。

巷間ではなかなかお目にかかることもない大学紀要の認知度に不安を覚えることもありませんが、書架の乱れ具合やその前にしゃがみこんで紀要を探している学生の姿を見ると、やはり大学図書館に必要な資料なのだと、ひとり顔きつ満足しています。